

人間植物関係学特論演習（二）（2単位）

担当者氏名 山口裕文 松嶋賢一

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

植物と人間との関係の福祉的活用例について学術論文の内容を教員とともに検討する。観賞植物、景観植物、雑草などの自然景観植物、食用植物、香源植物、儀礼植物など、人々の生活に密接に関わる多様な植物を生態系保全への配慮をふまえて癒しや安らぎ、健康促進や生活の質の向上へ活用する技法を人間植物関係学特論で学んだ理論と関連させて理解する。活用技術体系を理解し、具体的にソフトウェアの近代化の状況を検証しながら関連技法を自律的に改善できる能力を習得させる。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

人間植物関係学 園芸学 民族植物学 植物文化多様性
 数量化理論 調査解析法

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	人間植物関係性の発展	人間と植物の関係性（競争・共生・共存）の発展史	人間と植物の関係性の福祉活用に関する主要素を整理し、要素ごとに福祉機能、癒しや安らぎの機能を検証し、人間植物学特論での原理を復習しておくこと。また、当該の講義のテーマと内容に沿った学術の現状について推薦図書等を通して予習しておくこと。野外での演習の場合は作業できる服装を準備すること
2	自然景観・人工景観による福祉	森林セラピーと草遊び等の植物鑑賞の現状	
3	観賞・庭園・景観植物による福祉	花、みどり、ガーデニングのもつ効用	
4	ナルコティクス植物による福祉	嗜好料、飲料、陶酔植物の類型法	
5	香源植物による福祉	香料、香辛料植物、ハーブ、東西香り文化の比較	
6	民家庭園とホームガーデンにおける福祉	緑陰樹、落葉、果物の季節感等のイメージ調査	
7	儀礼・宗教植物による福祉	仏花、祝花、供花の多様性と倫理評価	
8	植物活用の地域性	癒し植物の原産地での発展の検証	
9	植物活用の場の設計	住環境における生活文化活用の計画	
10	植物活用の評価	植物活用技法の評価手法の構成	
11	植物活用の発展	現代社会における発展事例の視察	
12	植物活用の地域複合	植物活用技術の地域的集中の検証	
13	植物活用の文化複合	植物活用技術の体系と高度化と劣化	
14	植物活用の連携	自然活用や動物活用との連携法	
15	総合討論	総括	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

バイオセラピー学入門（講談社）、栽培植物の自然史Ⅰ、Ⅱ（北海道大学出版会）など

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

授業レポートを毎回提出させ、執筆内容（知識、論旨等）によって総合的に評価する。

◆オフィスアワー

授業期間中の火曜日 13 時より 14 時

◆その他受講上の注意事項